

【022】 基本的人権に関して、わが国の憲法がとっている基本的な考え方として、最も妥当なものは次のうちどれか。

- 1 基本的人権は憲法で公共の福祉に合致する範囲においてのみ尊重されるものと規定されているから、政令や条例でこれを制限することはこの目的に反しない限り、憲法を精神を生かしたものと解してよい。
- 2 基本的人権は国家権力によって国民に対して与えられ、憲法に規定し保障されたものであるから、国民はその恩恵に感謝し、この憲法の擁護に努めなければならない。
- 3 基本的人権は天賦固有のものであり、永久に侵しえないものであるから国家権力や憲法に先行するものと考えられ、憲法の改正をもってしても基本的人権の尊重という根本概念は変更することはできない。
- 4 基本的人権の尊重は、人間が当然に守らなければならない道徳であるという意味で法以上のものであり、その維持は各人の人間性と良識とによってのみ達成できるもので、憲法にこの規定があるのは単に最高の理想として表現したにすぎない。
- 5 基本的人権は法律に反しない限りにおいてのみ憲法により保障されたものであるから、主権者たる国民の直接代表機関である国会において制定された法律によれば侵すことができる。

【023】 日本国憲法に定められている法の下での平等に関する次の記述のうち、妥当なのはどれか。

- 1 法の下での平等とは、法の内容そのものが平等の原則に従うべきことを意味するものであり、法の執行や適用に当たり、行政権や司法権が国民を差別してはならないことを意味するものではない。
- 2 憲法では、国民は人種、信条、性別、社会的身分又は門地により差別されないと定めているが、これらの列挙に該当しない場合についてもこの条文は適用される。
- 3 法の下での平等とは、絶対的・機械的平等を意味し、事後的・実質的差異を前提とするものではないため、例えば労働条件について女性を女性特有の性質に基づいて優遇することは違憲となる。
- 4 歴史的に差別されてきた人々に対し優越的な処遇を与える積極的な差別撤廃措置は、逆差別につながり法の下での平等に反するため、一切禁止される。
- 5 憲法は、個人や企業などの私人相互の関係に対しても法の下での平等を定めており、私人間で法の下での平等が問題となる場合には、憲法の条文を直接適用すべきとの直接適用説が採用されている。

【024】 日本国憲法が保障している基本的人権に関する次の記述のうち、妥当なのはどれか。

- 1 国際協調の精神に基づき、日本人の海外渡航、外国移住、国籍離脱の自由が保障され、外国人の入国の自由も保障されている。
- 2 内心における信仰の自由は、信仰に公共の安全、公共の秩序への侵害の危険性が内在されている場合には、規制が許される。
- 3 表現の自由は保障されているが、検閲については認められる場合と認められない場合があり、それぞれ法律によって規定することとされている。
- 4 国民には平等権が保障され、栄典の授与はいかなる特権も伴わず、これを受ける者一代に限り効力が認められる。
- 5 何人も、法律、命令、規則の制定・改廃について請願することが認められており、この保障は国等に請願内容に応じた措置をとるべき法的義務を負わせる。

【022】 3

選択肢3の文章がすべて

【023】 2

- 1 適用の平等も意味する
- 3 相対的平等を意味する
- 4 一切禁止というわけではない
- 5 関節適用説

【024】 4

- 1 外国人の入国の自由は保障されていない
- 2 内心における信仰の自由は保障される
- 3 検閲は絶対的に禁止
- 5 国などに措置をとらせるものとははいえない